

7月6日（金）に「平成30年度進路講演会」が行われました。

講師は、本校卒業生で現在本校の職員でもある石川美子先生と、本校卒業後、常総市で開業されている草間泰貴様です。



演題「学生時代とその後」

講演内容より一部紹介

「小学校では自分の席から黒板の文字は見えなかった。理科や家庭科などの授業で常に緊張していた記憶がある。盲学校中学部に来てからは小学校でできなかった経験を個別の支援を受けながらたくさん経験することができた。」

「高校や大学では周囲の人に恵まれ、一生つきあえる友達にも出会うことができた。」

「社会に出ると自分の障害に向き合わなければならない場面がある。自分の障害について説明することは楽しいことではないが、困っていることは何か、どう配慮してもらいたいかを伝えることが大事。説明する力をつける必要がある。」

高校の合格発表の日、単眼鏡を使って貼り出された掲示板から自分の番号と名前を探していたら、隣にいた父親が「番号あったよ」と教えてくれた。

石川先生はこのエピソードを引用して、「先生や保護者の皆さんにお願いがあります。子ども達が一生懸命見ようとしているときは、少し待ってあげてください。」とお話されていました。



演題「障害と第二の人生」

講演内容より一部紹介

「学生時代には『リハビリテーション医学』なども学習していたが、実際に訪問マッサージを始めたときには、座学で学んでいたことと違い難しいと感じることもあった。」

「訪問マッサージでは自分の目指す「治療」と考え方の違いがあったので、自分自身で開業をする決心をした。」

「開業した場合には国家資格をもっているからこそその強み（健康保険を活用できるなど）を活かしていけるとよいと思う。」

草間様には、実際に開業の際に準備したことなど、出口を目前にした生徒からの質問に丁寧に答えてくださいました。

「社会人になってから視力が落ち盲学校へ入学。久しぶりの学生生活の中でかすみがうらマラソン」などに出場した。社会人になってからスポーツには取り組んでいなかったので、3年間の中で「走る」という喜びをもう一度感じる事ができた。国体やパラリンピックなども開催される。ぜひスポーツに取り組んで見るとよいと思う。」とお話されていました。